

## P-72

アトピー性皮膚炎患者に対する梔子柏皮湯の臨床効果  
およびその奏功機序の検討

富山医科薬科大学・医学部・皮膚科学教室

○豊田雅彦、中村元一、牧野輝彦、諸橋正昭

〔目的〕アトピー性皮膚炎患者の治療に対し種々の漢方薬の臨床的有用性が認められているが、その奏功機序に関する検討は未だ十分とは言い難い。今回我々はアトピー性皮膚炎患者25名に梔子柏皮湯を投与し、その臨床効果を判定するとともに、血中および皮膚組織中のアレルギー、神経関連因子などの変化について検討した。

〔方法〕アトピー性皮膚炎患者25名（男性16名、女性9名、平均年齢23.1歳）に梔子柏皮湯（コタロー梔子柏皮湯エキス細粒：N314）1日6.0gを8～16週経口投与した。投与開始前後に採血を行い、同意の得られた5症例においては投与前後に背部の近接部位より皮膚生検を施行した。臨床効果の判定は標準化された皮疹スコアおよび痒みスコアを用いた。血中神経関連因子(nerve growth factor: NGF, substance P: SP)、可溶性接着因子(sELAM-1, sICAM-1, sVCAM-1)、サイトカイン(IL-2, IL-4, IL-5, IL-6, IL-10, IFN-gamma)およびリンパ球内サイトカインをELISA, RIA, Flow cytometryなどを用いて測定した。生検組織はリンパ球、好酸球および肥満細胞数、免疫染色にて神経線維およびNGF陽性表皮細胞などを観察した。

〔結果〕梔子柏皮湯投与後以下の変化が認められた。①臨床効果：皮疹スコアおよび痒みスコアの減少。②臨床検査値：血中好酸球数およびeosinophil cationic protein (ECP)の減少。③血中神経系因子：血漿中NGFおよびSPの低下。④血中可溶性接着因子：sELAM-1の減少。⑤血中サイトカイン：IL-4, IL-6, IL-10の減少。⑥細胞内サイトカイン：IL-4陽性CD4+ T細胞比率の減少。⑦生検組織：浸潤好酸球数および肥満細胞数の減少。

〔考察〕梔子柏皮湯の投与により血中および組織内浸潤好酸球の減少とECPの減少が認められ、本剤による痒みの軽減は好酸球に対する作用が主要因の一つと考えられた。また本剤は血中のNGFやSPなど神経系因子にも影響を及ぼすことが明らかとなった。既に我々はアトピー性皮膚炎において血中NGFとSP値が密接に相関することを明らかにしており、本剤の奏功機序にこれら神経系因子への調節機能が関与している可能性が示唆された。なおサイトカインの変動は臨床症状の改善に伴う二次的な結果である可能性も考えられた。

〔結論〕梔子柏皮湯はアトピー性皮膚炎に対して臨床的に有用であり、その奏功機序は皮膚局所のみならず末梢血液中の諸因子に作用する結果であることが明らかとなった。今後これらの個々の作用点について*in vitro*での検討が必要であると思われる。